

*JATLaC*

# 言語文化教育学会 第13回大会

予稿集

2013年12月14日（土曜日）・15日（日曜日）

於：早稲田大学 早稲田キャンパス

JATLaC 言語文化教育学会

## 《会場案内：早稲田大学早稲田キャンパス》

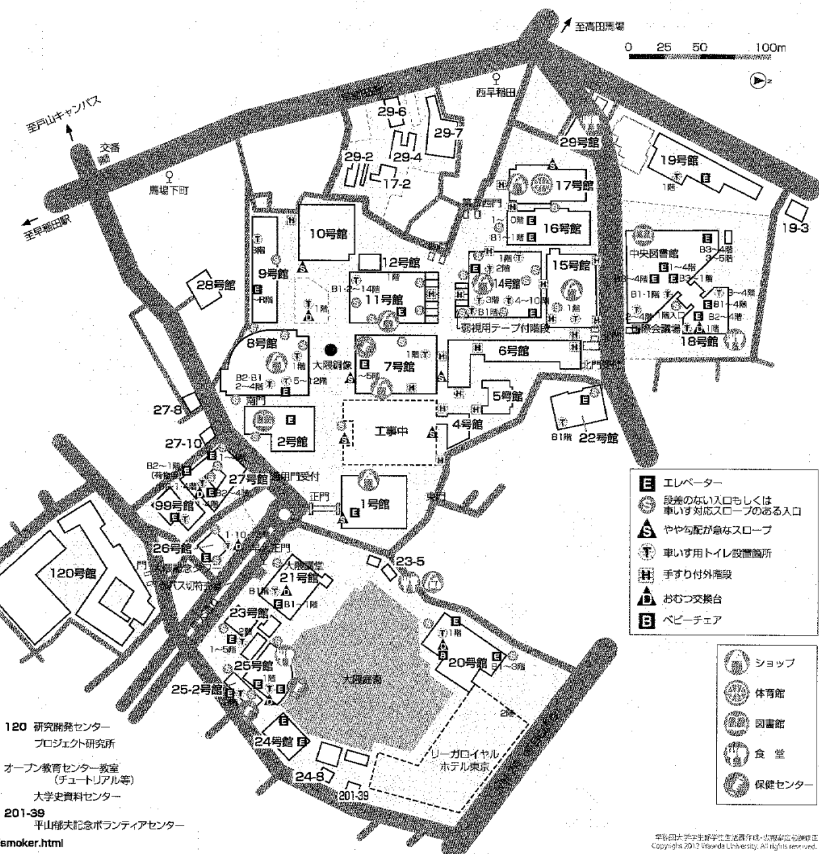


### ◇住所

169-8050 新宿区西早稲田1-6-1  
TEL 03-3203-4141代表

### 早稲田キャンパス

- 1 入学センター  
現代政治経済研究所  
1号館生協/ビショップ(ラウンジ)
- 2 食生活/保健センター  
大隈記念室  
高田早稲田記念研究図書室  
高田早稲田記念研究図書室  
高田早稲田記念研究図書室  
高田早稲田記念研究図書室
- 4 政治経済学部(研究室)  
政治経済学部(研究室)  
政治経済学部(研究室)
- 6 政治経済学部(研究室)  
政治経済学部(研究室)  
政治経済学部(研究室)
- 7 早稲田ポータルオフィス  
共通教室  
総合学生支援室(1F)  
国際コミュニケーションセンター(1F)  
ライティングセンター  
保健センター早稲田分室  
アカデミックラウンジ  
コーゼンショップ
- 8 共通教室  
法学部・法学研究科・比研  
8号館生協/ビショップ
- 9 共通教室  
政治経済学部 政治学研究科  
経済学研究科  
男女共同参画推進室
- 10 共通教室  
法学研究科 会計研究科  
法学部 商学学部総合研究所  
国際教養学部  
売店
- 12 社会科学部(教室)  
社会科学部(教室)  
社会科学部(教室)
- 14 共通教室 大学校  
(社会科学部・教育学研究科)  
社会科学部  
教育学研究科  
14号館生協/ビショップ
- 15 共通教室  
15号館生協/ビショップ(ラウンジ)  
教育学部 教育学研究科 教職研究科  
教育学部 教育学研究科 教職研究科
- 16 共通教室  
教育学部 教育学研究科 教職研究科  
教育学部 教育学研究科 教職研究科
- 17 体育館  
生協ライオンセンター  
フックセンター  
トラニールサービスセンター  
総合サービスセンター
- 17-2 甘泉寮
- 18 総合学術情報センター  
(中央図書館、中央記念ホール、  
国際会議場)  
生協学術図書
- 19 早稲田早稲田ビル  
アジア太平洋研究センター  
アジア太平洋研究センター  
形成支援プログラムオフィス
- 19-3 インキュベーションセンター  
20 大隈会館(本部事務所)  
21 大隈会館  
22 早稲田インターナショナルセンター  
国際部  
医学センター  
日本教育研究科  
日本教育研究センター  
別府日本語研修所  
23 エグゼクティブセンター本館  
23-5 UNI SHOP & CAFE 125  
24 メディアネットワークセンター  
通商教育センター
- 24-8 ハラスメント防止委員会  
25 大隈会館(2-3F)  
リフレクシュアリティ(1F)
- 25-2 保健センター  
26 大隈会館  
大隈会館  
公共教育研究科  
文化推進部  
125記念室
- 27 小野村記念館  
法学研究科  
小野村記念館  
インフォメーションスクエア  
ウェダギャラリー  
27-8 豊田記念ビル  
社会連携推進室  
人間総合研究センター分室  
学生・教職員用託児室
- 27-10 グループ学習室・自習室  
29 生協生協 29号館フードショップ  
29-2 エグゼクティブセンター別館  
29-4 研究室  
29-6 研究室  
29-7 国際情報連携研究科早稲田  
通商教育センター
- 99 早稲田STEP21  
学生住宅センター  
芸術学教室
- 120 研究開発センター  
プロジェクト研究所  
オープン教育センター教室  
(チュートリアル等)  
大学史料センター
- 201-39 早稲田記念ボランティアセンター



最新の交通情報は以下を参照 [URL] <http://www.waseda.jp/jp/global/guide/emaker.html>

早稲田大学は、学術・文化・社会の発展に貢献することを目的として、  
Copyright © 2017 Waseda University. All rights reserved.

*JATLaC*

# 言語文化教育学会

## 第 13 回大会

言語文化教育学会  
第13回 大会プログラム

2013年 12月 14日(土) ・ 15日(日)

会場： 早稲田大学 早稲田キャンパス

16号館4階405教室

参加費： 1,000 円(当日受付にて 学生証提示の方は無料)

使用言語： 日本語

後援：公益財団法人 かめのり財団

協力：公益財団法人 国際文化フォーラム

・ 12月14日(土)

基調講演 : 10:30-12:00

當作 靖彦 氏 (カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)

「グローバル社会を生き抜くための能力開発

—言語文化教育の果たす役割—」

今回の来日は、公益財団法人かめのり財団の招聘によるものです。

シンポジウム : 13:30-17:30

「グローバル人材育成の現状と課題-教育および企業の立場から」

パネリスト:

小川 将明 氏 (Innovative Micro Technology Program Manager)

瀧田 義昭 氏 (元日本航空)

浜地 道雄 氏 (「一般財団法人 グローバル人材開発」顧問)

水鳥 敬満 氏 (Goldrush Computing株式会社代表取締役)

溝口 悦子 氏 (都立国際高校)

コーディネーター:

深田 嘉昭 氏 (当学会理事・武蔵野大学他)

・12月15日(日)

個人発表 : 10:00-11:30

10:00-10:30 中山 富子 (昭和女子大学大学院)

コーパス調査に基づく補助動詞『しまう』の考察

10:30-11:00 大橋 弘顕 (横浜国立大学)

『正解』を求める授業から、『つながり』の実現へ

ー必修リーディング・リスニングクラスでの試み。

11:00-11:30 萩原 伸一郎 (フリー)

「先」が表す時に関する一考察

閉会式 : 11:35-11:45

## 会長挨拶

本日は「言語文化教育学会」(JATLaC: the Japan Association of Teaching Language and Culture) の第 13 回年次大会にお越しいただきありがとうございます。最初に少しばかり本学会の紹介を致します。

イスラエルとパレスティナ、アフガニスタンやシリアのニュースを見聞きするにつけ、信条、価値観、世界観を異にする人々の共生がいかに難しいかを実感させられます。だからこそ、本学会は「共生」をモットーに発足しました。つまり、教え、学ぶ言語を問わず、専門を問わず、学生とか社会人とか教師とかの身分を問わず、また民族、宗教、障害の有無を問わない開かれた学会を目指しています。そのため、4 つの特徴をもっています。第 1 は、「横断性」、すなわち、日本語であれ、英語であれ、フランス語であれ、中国語や韓国語であれ、教え、学ぶ言語や文化の違いを超えた学会です。第 2 は、「学際性」、すなわち、文学、言語学、社会学など、専門領域の違いを超えた人々の集団です。第 3 は、「職業」の「職」の「職際性」、すなわち、教師、学生、企業人、主婦、退職者など、身分・職業を問わない人々の自由な議論の場です。そして第 4 に、「異なる」の「異際性」、すなわち、人種、民族、宗教、思想、文化などの違いや障害の有無を超えた研究者の共同体です。本学会も様々な専門の学生、教師、企業人、主婦、外国人などを理事に迎え、運営しています。

学会が専門ごとに細分化され、深化するなかであえてこのような開かれた学会を目指したのは、言語文化教育は分析的であると同時に総合的な性格をもつと考えるからでもあります。そして、言語・文化・教育に関し、コミュニケーションのさまざまな問題を扱ってきました。全体主義と違い、意見の相違は民主主義の根本です。したがって、本学会では、言語文化教育に関心をもつ人々が異なる立場から異なる意見をもちより、自由に議論し、言語文化教育にたいする意識を高めあっています。自然界にしろ、人類にしろ、多様性と変化はすべての基本です。本学会が思想的、構造的に硬直した組織になることなく、多様性を保ちながらつねに変化していくことを目指しています。

本学会は例年 6 月に定例シンポジウム、11 月に年次大会を開催しています。また、機関誌『言語文化教育』を発行しています。

年 2 回のシンポジウムを開催しておりますが、シンポジウムは本来インタラク션을を旨とします。パネリストの講義を黙って聴くものではありません。そのためにパネリストの発題を短くし、議論の時間をたっぷり取っています。学生、教員、ビジネスマン、主婦と異なる立場から異なる意見を自由に出していただき、議論し、言語文化教育に対する意識を高めていただきたいのです。意見の一致を見る必要はありません。お互いの立場、お互いの考えの違いを認めながら、共有部分を増やしていく。これが本学会が求める共生の理念であります。

この大会への参加を心から歓迎し、また来年の大会でお会いできるよう願っています。

言語文化教育学会会長 矢野 安剛

## 基調講演

12 月 14 日（土） 午前 10 時 30 分～12 時

當作 靖彦 氏

カリフォルニア大学サンディエゴ校教授

「グローバル社会を生き抜くための能力開発  
—言語文化教育の果たす役割—」

司会 ： 矢野 安剛 会長

## 講師紹介

### 當作 靖彦（とうさく・やすひこ）

カリフォルニア大学サンディエゴ校国際関係・環太平洋研究大学院教授。外国語プログラムディレクター。カリフォルニア大学サンディエゴ校言語学部大学院修了。哲学博士。専門は第二言語習得理論、外国語教授法、言語能力評価。現在、アメリカ日本語教育学会会長、アメリカナショナルスタンダードズ理事会日本語代表理事、外国語教育ロビー団体 Joint National Committee on Languages 日本語代表、コンピュータを使った日本語教育学会会長、日本語教育グローバルネットワーク・アーティキュレーションプロジェクト統括責任者などをつとめる。主な著書には Yookoso!: An Invitation to Contemporary Japanese 3rd Edition, 2006、Yookoso!: Continuing with Contemporary Japanese 3rd Edition, New York: McGraw-Hill 2006、『ドラえもののどこでも日本語』(共著) 小学館 2010、『外国語学習のめやす -高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』(共著) 国際文化フォーラム 2012 などがある







シンポジウム

13：30-17：30

「グローバル人材育成の現状と課題  
-教育および企業の立場から-」

パネリスト：

小川 将明 氏 (Innovative Micro Technology Program Manager)

瀧田 義昭 氏 (元日本航空・株式会社ベターコミュニケーション代表)

浜地 道雄 氏 (「一般財団法人 グローバル人材開発」顧問)

水鳥 敬満 氏 (Goldrush Computing株式会社代表取締役)

溝口 悦子 氏 (都立国際高校)

コーディネーター：

深田 嘉昭 氏 (当学会理事・武蔵野大学他)

## シンポジウム (13:30-17:30)

### パネリスト・コーディネーター紹介 (50 音順・敬称略)

**小川 将明 (おがわ まさあき)**

Innovative Micro Technology, Program Manager

早稲田大学理工学部電気電子情報工学科を卒業後、カリフォルニア州立ロサンゼルス校大学院電子工学専攻修士課程に進学し、SRC (Semiconductor Research Corporation)がスポンサーするFENA (Functional Engineered Nano Architectonics) 研究員、WIN (Western Institute of Nanoelectronics) 研究員、Intel社との次世代半導体スピニングFET共同プロジェクトリーダーとしてスピニングFETの研究。

同大学博士課程終了後、2010年4月よりカリフォルニア州サンタバーバラにあるInnovative Micro Technology (IMT) においてProcess Development Engineerの職に従事。2011年11月より、同社にて現職のProgram Managerに着任し、主に医療用デバイス等の6つのプロジェクトを担当。

2011年、佐賀県が主催する佐賀県海外使節団のプログラムの企画・運営を担当。2012年より、同プログラムを南カリフォルニア佐賀県人会で主催し、プログラム総責任者。

**瀧田 義昭 (たきた よしあき)**

ビジネスマナー、接遇等会社、講師並びに代表

昭和38年、青山学院大学を卒業後、1年間製造メーカーに勤務。昭和39年04月 日本航空株式会社へ客室乗務員として入社。国際線客室乗務員として乗務を開始。5年後、中型機の責任者、パーサー職となり2年後にスチュワーデスの育成教官を約2年間勤務。その後国際線ジャンボ機の責任者、チーフパーサー職。

昭和50年には労使関係の不安定さに微力を投ずるべく組合の専従となり、約4年間組合業務に専念。職場復帰後、2年間はチーフパーサー職として国内線勤務後、管理職として乗務を兼務した。

昭和61年05月、スチュワーデス採用課長となり約5年間従事。平成02年12月、国際営業部客室サービス企画室長として機内サービス全般の企画を担当。平成04年08月 グラム支店長として3年間単身赴任

56才で本社を定年後関連会社へ転籍。平成07年06月 株式会社ティエフケー 監査役「機内食製造会社」、平成09年06月 株式会社ジャルパック 取締役「旅客サービス部・品質管理(クレーム)担当」、

平成11年06月 株式会社ジャルカード 常務取締役「マイレージ事務局・テレマーケティング担当」、

平成13年06月 株式会社ベターコミュニケーション設立し代表となり、現在に至る。

### **浜地 道雄（はまじ みつお）**

国際ビジネスコンサルタント。文教大学国際学部非常勤講師。1943年上海生まれ  
慶應義塾大学経済学部卒業後、ニチメン（現・双日）に入社。貿易大学で学んだ後、石油部に  
配属となり中近東に駐在。世界初の原油長期DD（Direct Deal）に成功。  
45歳で退職し帝国データバンクへ。アメリカ支社（NY）設立後、翻訳会社、日米通信会社を  
経て2002年に独立。

米国大手情報システム会社Cognizant(Japan)や、人材教育IEBC、音楽制作会社ドリームライ  
フなど、数社のコンサルタントを務める。愛知万博サウディアラビア館設営に従事。名指揮者  
バーンスタインの音楽映像の日本語版DVDシリーズを手がける。（一社）日本在外企業協会の  
「月刊グローバル経営」にGlobal Business English Fileを連載中。

趣味は音楽（オーボエ、尺八）。

ビジネス・モットーはISA:Imagine（可能性は？） Study（状況は？） してAct（実行）。  
現在はSTAYビジネスに集中：S（好きなこと）、T（得意なこと）、そしてAY（相手に役立  
つこと）。藤沢市民交響楽団、浦安シティオーケストラを創設。

### **水鳥 敬満（みづとり たかみつ）**

2002年早稲田大学理工学部経営システム工学科卒業

2004年 慶應義塾大学大学院政策メディア研究科修了

2005年-2009年 ソニーエリクソンモバイルコミュニケーションズ株式会社

東京及びスウェーデンのオフィスにて携帯電話の開発に従事

2009年 Goldrush Computing株式会社を設立

スマートフォン向けのアプリケーションソフトウェアの開発を国内外の企業向けに行う事業を  
展開。

2013年7月からは米国シリコンバレーのスタートアップ企業、Pocket Supernova社のリード  
エンジニアを兼務

### **溝口 悦子（みぞぐち えつこ）**

東京都出身。

東京都立高等学校（池袋商業、足立東、赤城台、国際、新宿、白鷗、北園）英語科教諭として  
35年間勤務し2013年3月退職。

同年4月より国際高等学校に日勤講師として勤務。

### **深田 嘉昭（ふかだ よしあき）**

愛知県岡崎市出身。

早稲田大学社会科学部卒業。早稲田大学教育学研究科国語教育専攻修士課程修了。早稲田大学  
文学研究科日本語日本文化専攻博士後期課程満期退学。

現在、大東文化大学にて、学部留学生向けの日本語教育。武蔵野大学にて、大学院生への日本  
語教育。学部学生への言語学、異文化コミュニケーションなどを担当。

専門は、第2言語（日本語）教育、認知言語学。

## 《資料》

### グローバル人材育成の現状と課題 —中等教育の立場から—

東京都立国際高等学校 溝口悦子

#### 1、はじめに

近年グローバル化が進展するなかで、若者の海外への関心の低下が問題視されるようになりつつある。そこで、政府は2011年には「グローバル人材育成推進会議」を設置し、同年6月には「中間まとめ」を、2012年6月には「グローバル人材育成戦略 審議まとめ」（以下「審議まとめ」）を公表するに至った。こうした動向から、本報告ではグローバル人材育成は焦眉の急の課題と捉え、政府が公表した資料を基に、グローバル人材とは何かの概念を整理した。さらに、それを基に特に中等教育レベルで求められている力を明らかにしていく。加えて、グローバル人材育成を目的として設立された先進校における人材育成の状況及び課題について、雑誌や新聞記事の情報をもとに分析した。

#### 2、「グローバル人材」の概念整理

政府公表の「審議まとめ」では、「グローバル人材」の概念として、以下の要素があると考えている。

要素1：語学力・コミュニケーション能力

要素2：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素3：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

その他：幅広い教養、深い専門性、課題発見・解決能力、

チームワークとリーダーシップ、公共性・倫理性、メディア・リテラシー等

政府は、これらの要素のうち、測定が比較的容易だとして要素1の「語学力・コミュニケーション能力」を以下のように5段階で、捉えている。さらに企業に対するアンケート調査をもとに、③～⑤をグローバル人材に必要な能力とみなしている。

①海外旅行会話レベル

②日常生活会話レベル

③業務上の文書・会話レベル

④二者間折衝・交渉レベル

⑤多数者間折衝・交渉レベル

#### 3、中等教育レベルで求められているグローバル人材育成

政府は初等中等教育段階において、基礎的な学力・体力・対人関係力等をしっかり児童生徒に身に付けさせたうえで、グローバル人材育成との関係では、（1）実践的な英語教育の強化、（2）高校留学等の促進、（3）教員の資質・能力の向上等を求めている。特に中等教育レベルにおいて、政府は上述の③レベルの人材の厚みを増すことを目指している。また、④⑤レベルの潜在的候補者層を確保することにも注力すべきと考え、具体的に以下のことを計画している。

1. 18歳頃の時点までに1年間以上の留学ないし在外経験を有する者を3万人規模に増やす。

2. 国際バカロレア資格への対応等を進める。高校卒業時に国際バカロレア資格を取得可能な、又はそれに準じた教育を行う学校を5年以内に200校程度へ増加させる。

#### 4、グローバル人材育成先進校の取り組みの現状

本報告で取り上げる先進校とは、1989年に開設された全国初の新国際学校である東京都立国際高等学校（東京都目黒区）のことである。新国際学校とは、国際化への対応を目的に、臨時教育審議会が1987年に第3次及び最終答申で設置を求めた帰国生徒・外国人生徒・一般生徒がともに学ぶ初等または中等の学校を指す。将来、国際社会で活躍できる有為な人材を育て

ることを主な目的としている。開校当時から現在に至るまで、国際理解教育（文部科学省では2006年から「国際教育」の語を使用）と外国語教育をセットにして教えている点に、カリキュラムの特徴がある。

2013年春、国際系大学（「国際」の語が入る大学・学部）の就職の実情を伝える週刊誌の記事（サンデー毎日2013年5月5日号）が教育者の注目を集めた。「グローバル人材は語学力だけではなくプラスαの力が必要、その点国際系大学出身者は引く手あまた」と報じている。

「TOEIC900点の若手社員がアジアのある国への赴任を拒んだ。理由は『英語圏以外でやっていく自信がない』だった。それに比べ、国際系大学出身者はタフさが持ち味。英語はあくまでも伝達手段とわきまえているからだ。」このようなグローバル人材育成におけるプラスαの力を養うためにも、東京都立国際高等学校の国際関係、比較文化、社会生活、伝統芸能等の国際理解教育は威力を発揮しているように思われる。

また、同校は現在公立高校としては全国初となる、国際バカロレア（IB）のディプロマプログラムの認定校を目指している。これは、スイスのジュネーブに本部を置く国際バカロレア機構から認定を受けた学校の課程を修了し、統一試験に合格した生徒に対し、海外大学への進学を付与する仕組みを意味する。このプログラムには、初等教育、中等教育、ディプロマの3つがあるが、同校が目指しているのは、海外の大学への進学資格を取得できるディプロマプログラムである。

## 5、グローバル人材育成における課題

現状では上述の「3、中等教育レベルで求められているグローバル人材育成」の項目で記した、「教員の資質・能力の向上」が一番の課題であるように思われる。たとえば先進校で国際バカロレアプログラムを遂行するために、数学や理科等の科目を英語で教授できる教員を「バカロレア公募」し、発掘していかなくてはならない。また英語科教員が英語で授業をするための力量をますます磨いていくための研修の機会が増えることは必至である。具体例として、東京都教育委員会は来年度から経験3年目の全ての中学・高校の英語科教員を3ヶ月間、英語教授法を学ぶために英語圏の国に短期留学させることを決定した（日本教育新聞11月18日）。来年度予算で22億7100万円を要求し、渡航費や授業料等は都教委が全額負担するという報道があった。

## 6、終わりに

本報告では、政府公表の「審議まとめ」を基に、グローバル人材とは「語学力・コミュニケーション能力」を始めとする幾つかの構成要素があるということを明らかにした。さらに、雑誌や新聞の記事から先進校での取り組みを扱った。

今後解明していきたいのは、「語学力・コミュニケーション能力」の5段階における具体的イメージである。政府が特に中等教育レベルで目指している③の文書・会話レベルは、④や⑤の折衝・交渉レベルとどのように異なるのかに、報告者は関心を抱いている。

## 参考文献

- ウェンドフェルト延子(2012)「国際バカロレアが習得できる高校の取り組み 特集：グローバル人材を育てる英語教育」『英語教育』第61巻第9号 大修館 pp.30-31  
田口雅子(2012)『国際バカロレア』 松柏社  
溝口悦子(2005)『卒業生の追跡調査からみた新国際学校のエデュケーション効果に関する事例研究』平成16年度科学研究費補助金（奨励研究）研究成果報告書 pp.1-84

2003 年の大学院留学当初から日本人留学生の少なさ、そして卒業後に現地企業に就職する日本人留学生の少なさに強い危機感を覚える。2011 年に佐賀県が幕末維新期に遣米・遣欧使節団に若者を世界に送り出し、明治期の日本をリードする多数の人材を輩出したという歴史を現代に再現する事をコンセプトに、これからの佐賀県、日本を担う国際的な人材を育成する為に企画した佐賀県海外使節団という事業に賛同し、プログラムの企画・運営を担当する。

2012 年より、同プログラムを南カリフォルニア佐賀県人会で主催し、プログラムの総責任者を務める。アメリカ西海岸に大学生 9 名を 2 週間派遣し、シリコンバレー等の企業、NPO 団体、現地で活躍する起業家、研究者を訪問し、起業家精神・フロンティアスピリッツを育成する事を目的とする。また佐賀県に縁のある優秀な人材の発掘、お互いに切磋琢磨する場の提供、帰国報告会により地域に根差した支援者ネットワークを構築する事により、グローバル人材の育成・地域活性化・若者が活躍出来る場の創造を目的とする。留学時代の経験から Proactive な人材育成を目指し、参加者には与えられたプログラムから単に学ぶのではなく、各自の将来設計を独りで深く考え、自らがアメリカで学びたい事を考え抜き、希望の訪問先・セミナースピーカーを提案し、学生自らが創り上げるプログラムへと進化させる。

今後の目標として、世界各地にある 13 の佐賀県人会で同様のプログラムの立ち上げを促す、また日系メディアによる広報活動を行う事でロサンゼルス他県人会で同様のプログラムの立ち上げを促す事により、海外での日本人のプレゼンス、そして世界での日本のプレゼンスを高める事を志しております。アメリカでのグローバル人材育成プログラムの一例として、佐賀県海外使節団を御紹介したいと思っております。







## 個人発表

12 月 15 日（日）

午前 10 時 00 分～11 時 30 分

## 1. 研究の背景と目的

補助動詞「～てしまう」<sup>1</sup>は、これまで、アスペクト的意味(完了)及び「感情・評価的意味」<sup>2</sup>など意味に関する考察がなされるとともに、「～てしまう」に前接する動詞とアスペクトとの関わりについて、多くの議論がなされている。庵他(2000)は、「～てしまう」は基本的に動作主が意志的に行ったものであるため、前接する動詞が無意志動詞の場合は、完了を表しにくく、遺憾の意味になりやすいとし、「感情・評価的意味」との関わりにまで発展させている。杉本(1991)も無意志動詞がモダリティの意味に関わると述べている。しかし、前接する動詞と「感情・評価的意味」との関わりについては研究が少ないため、議論が十分に尽くされているとは言えない。より信頼性の高い結論に近づけるためには、更に多くの側面からの考察が必要であろう。その糸口として、本研究では、コーパスを使って、意志動詞及び無意志動詞と「～てしまう」の意味との関係について考察していく。

考察を進める前に、まず、意志動詞、無意志動詞を区別するための基準を導き出す必要がある。これを本研究の第一の目的とする。次に、コーパスについては、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以降、BCCWJと記す)からデータを抽出し、次節の基準に従い意志動詞、無意志動詞に分類する。その後、アスペクト的意味(完了)<sup>3</sup>・「感情・評価的意味」に現れる意志動詞・無意志動詞の数を求め、それぞれの関連を考察する。これを第二の目的とする。

## 2. 意志動詞と無意志動詞の分類基準

意志動詞か、無意志動詞かという動詞の分類は、以下、吉川(1974)の基準[1][2]が詳しい。本研究では、それを分類基準とする。

[1]意志動詞は、「行こう」のような「意向形(ウの形)」で「誘いかけ」を意味し、「行け」のような「命令形」で「命令」を意味することができる。また、動作動詞の中の意志動詞は、話し手の現在の意志を表す。

[2]無意志動詞には、以下①～⑤がある<sup>4</sup>。／①非情の動き(例：流れる)／②自然現象(ひかれる)／③人間の生理的な現象(むせる)／④人間の心理的な現象(ある)／⑤可能動詞(およげる)

上記のような動詞の観察に加え、庵他(2003)及び森山(1984)が指摘するように文中の語句の意味の影響も重要になる。庵他(2003)は、以下(1)の例を挙げて、その視点の必要性を指摘している。

(1)彼女の家に電話を掛けるとつい長話しちゃうんだ。(庵他 2003 : 11)

(1)の「長話する」はそれだけでは、意志動詞であるが、「つい」という副詞が付加されることで、文全体が無意志化すると述べている。本研究では、考察上、これも無意志動詞として扱う。更に無意志動詞が意志動詞化する例(2)についても考察する。

(2) a. ロボットになる。(無意志動詞)

b. 心がロボットのようになってしまった。(無意志動詞)

c. (変身遊びをしながら、幼稚園の先生が子供たちに向かって言う場合) みんな、今度はロボットになってしまおう。(意志動詞)

上記の例から明らかなように(2a)「なる」は無意志動詞であり、(2b)「なってしまった」の「なる」も無意志動詞であるが、(2c)のように「意向形」で用いられた場合は、意志動詞化する。すなわち、文中に現れる意志動詞・無意志動詞の区別に当たっては、まず「～てしまう」に前接する動詞をそのどちらかに区別し、さらに文全体に視野を広げ意志動詞を無意志動詞化、無意志動詞を意志動詞化するような動詞以外の他の語句の影響を考えなければならないということがわかる。このように、意志動詞、無意志動詞の区別は容易ではない。そのため、動詞の意味に留まらず、その形態、そして修飾語句まで考察の対象にし、BCCWJから抽出した用例を意志動詞と

<sup>1</sup> 以降、補助動詞「～てしまう」は、補助動詞を省略し「～てしまう」と記す。

<sup>2</sup> モダリティという場合もある。「遺憾」等マイナスの意味や「喜び」等プラスの意味があるとされる。

<sup>3</sup> 筆者は「～てしまう」の基本義は「完了」であると考え。「完了」と「感情・評価的意味」の関係も考察したいため、「完了」の意味のみで用いられる場合の数も調べた。

<sup>4</sup> [2]の①②⑤の無意志動詞の「意向形」は、推量を意味し、③④は「推量」「演技としての誘いかけ」を意味する。「命令形」では、①②⑤は、「願望」を意味し、③④は「願望」「演技として行う命令」を表す(吉川 1974 : 73)。

無意志動詞に分類していく<sup>5</sup>。次節ではBCCWJから抽出した動詞の分類結果を挙げ、その考察を行う。

### 3. 分析結果と考察

BCCWJの全データの中で、「～てしまう」に前接する動詞のうち最も出現頻度の高い「成る(なる)」個数：14,887<sup>2</sup>位の「為る(する)：13,301」、そして、先行文献でもよく取り上げられている動詞「食べる：400」、「落ちる：384」を考察の対象にした。BCCWJの「する」「なる」は全データのうち最初の2000を、「食べる」「落ちる」については全用例を観察した。以下(表1)がその結果である。4つの動詞について意志動詞か無意志動詞かに分類した後、完了の意味のみを表すアスペクトの意味と、感情・評価の意味(「遺憾」等マイナスの意味と「喜び」などプラスの意味を表す)を持つ用例数を調べたものである。

(表1)「～てしまう」に前接する動詞と意味 (( )内は、用例数/意志・無意志動詞別総数(%)を表す)

|                         | する        |            | なる <sup>6</sup> | 食べる       |        | 落ちる       |
|-------------------------|-----------|------------|-----------------|-----------|--------|-----------|
|                         | 意志        | 無意志        | 無意志             | 意志        | 無意志    | 無意志       |
| 総数(意志動詞・無意志動詞別)         | 994       | 1006       | 2000            | 380       | 20     | 384       |
| アスペクトの意味(完了)のみを持つ用例数    | 26(2.6)   | 0          | 0               | 17(4.5)   | 2(10)  | 0         |
| 「感情・評価の意味」プラスの意味を表す用例数  | 14(1.4)   | 4(0.4)     | 4(0.2)          | 47(12.4)  | 0      | 2(0.5)    |
| 「感情・評価の意味」マイナスの意味を表す用例数 | 954(96.0) | 1002(99.7) | 1996(99.8)      | 316(83.2) | 18(90) | 382(99.5) |
| 合計(動詞別)                 | 2000      |            | 2000            | 400       |        | 384       |

上記(表1)の結果を見ると、以下のようなことが言える。

- ①アスペクトの意味(完了)のみを表す用例は少ない。0%～10%である。「～てしまう」が「完了」のみを表す場合、前接する動詞は、無意志動詞は少ない(0%～10%)。意志動詞も多いわけではない(2.6%、4.5%)。
- ②無意志動詞は、マイナスの「感情・評価の意味」を表すことが多い(90%～99.8%)。意志動詞も、無意志動詞ほどではないが、多い(83.2%、96%)。
- ③無意志動詞は、プラスの「感情・評価の意味」を表すことが少ない(0～0.5%)。

以上①～③をまとめると、「完了」というアスペクトの意味だけで用いられる用例は少なく、多くの場合「完了」の意味と共に「感情・評価の意味」も付加されると言える。マイナスの意味(「感情・評価の意味」と無意志動詞と何等かの関係がある可能性があるということが明らかになった。しかしながら、意志動詞もマイナスの意味が多く、無意志動詞独自の特性とは限らない可能性もある。

### 4. まとめ

動詞を意志動詞、無意志動詞に分類する際に、動詞の意味だけではなく、動詞の形態や文中の修飾語句の影響まで考慮に入れ、分類を行った。その結果、「～てしまう」は、マイナスの意味(遺憾等を表す「感情・評価の意味」と無意志動詞に何らかの関係がある可能性の存在が明らかになった。しかし、それが無意志動詞の特性であるとするまでには、更なるデータが必要である。今後、考察対象の動詞を増やし、また「漢語サ変動詞」の扱い等も考慮し、考察を続けていきたい。

<引用文献・関連URL>

庵功雄、清水佳子(2003)『時間を表す表現-テンス・アスペクト』スリーエーネットワーク

庵功雄、高梨信乃、中西久美子、山田敏弘(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

杉本武(1991)「「～てしまう」におけるアスペクトとモダリティ」『九州工業大学情報工学部紀要』4, 109 - 126

森山卓郎(1984)「アスペクトの意味の決まり方について」『日本語学』3, 70-84

吉川武時(1974)「日本語の動詞に関する一考察」『日本語学論集』1, 67 - 76

国立国語研究所(2009)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』<http://chunagon.ninjal.ac.jp/>

<sup>5</sup> 漢語サ変動詞は「購入する、記入する、契約する(意志)／一変する、壊滅する、乾燥する(無意志)」のように、自動詞か他動詞かにより意志動詞か無意志動詞かが決まる。

<sup>6</sup> 考察対象の用例には意志動詞化された「なる」はなかった。

「正解」を求める授業から、「つながり」の実現へー必修リーディング・リスニングクラスでの試み。

大橋 弘顕（横浜国立大学）

## 1. はじめに

横浜国立大学では一年生必修授業として多読・多聴を用いた授業を行っている。“From Perfection To Connection”（「正解」を求める授業から、「つながり」の実現へ）をキーワードに前期リーディング/リスニング（以下 1L/R）にて行った工学部の授業活動報告とその背景、そして生徒アンケート結果について報告する。

## 2. 背景

1 L/R は横浜国立大学の全学部対象の必修授業で通年行われるが、前記と後期では授業内容が異なる。後期は期末試験の点数 TOEFL（PPB）がそのまま評価に反映される関係上、TOEFL のテスト対策を行う。一方前期は TOEFL（PBT）500 点程度の英語力を養うことが目的である。尚教材はあらかじめ選定されたリストの中から各講師が選択をする。そして共通シラバスに定められたオブジェクティブスにのっとり授業を行うことが求められる。一方、講師自ら選定した教材を使用することも可能であるが、その場合は学部評議会の承認が必要となる。

## 3. 目指した授業

### 3-1. 他のクラス

時事ネタや社会の諸問題等を取り扱った教科書を使用したり、新聞の多読や映画のスク립トのディクテーションなどを通して多読、多聴に親しむクラスが多く見受けられる。

### 3-2. 教材

知りたいから読み、語りたいから議論する。そんな授業を試みたかった。それには受講生のだれもが関心を持ち、かつ普遍的なトピックが必要であった。教材には自ら選択したハーバード大学講師、Tal Ben-Shahar 著、“Happier”を使用した。心理学の一分野である“Positive psychology”関連の書籍で、通常的人生をより充実したものにするための知恵や思考法、方法論などを 168 ページに凝縮した一冊である。また、著者本人によるレクチャーが収められた動画をリスニング教材とした。より幸せになるための生き方を書籍、そして動画から学ぶ過程で英語力を養うのが目的である。

### 3-3. なぜ「正解」→「つながり」なのか？

「正解」を求める授業から、「つながり」の実現を目指した。その理由として受講生の意識が挙げられる。工学部においては、英語に苦手意識を持つ受講生が大多数を占める（2012 年に筆者が行った生徒アンケートでは 82% の生徒が苦手意識を訴えた）。Shahar (2008) は “The overall experience of pleasure and meaning.” と幸せを定義しているが、Shahar の定義に当てはめるならば英語の意義 (meaning) は感じていたとしても、喜び (pleasure)

を実感している受講生は少ないということが言える。この現象は従来の教育法に寄与している側面もあるのではないかと。「正解」—“Perfection”を求める教育に欠けているもの、それは知識欲や感動、そして気づきといった本来優れたメッセージそれ自体が満たしてくれる純粋な歓びを味わえるような「体験」ではないか？加えて、「正解」を求める教育はそれが成し遂げられなかった者に“Scarcity”(Brown, 2012)一欠乏感を与える。受講生が感じている「苦手感」は、その証明とは言えまいか？一方で“Connection”が求めるのは、リーディング/リスニング活動で得た知識や感動、気づきを自分なりに表現することである。問われるのは現状の力を総動員し、教材、そして他受講生と“Connect”しようとする意思、そして行動である。

#### 4. 授業活動

授業活動の軸となったのは、ブレインストーミングの手段の一つとして広く知られている *Mind Map* 活動である。「脳のスキルを活用し、放射思考でデーターを収集し、学習を続ければ、学ぶことがもっと楽になる。マインドマップは放射思考を外面化させたものだ」(Buzan, 2010, p. 56)とあるが、筆者は *Mind Map* をディスカッションにおいて多用した。それは以下の3点の理由からなる。

1. 自分なりの理解、視点、そして回答を表現できる。
2. 思考プロセスが一目瞭然である。
3. レベルの異なる受講生同士が学びあえる。

以上の理由から *Mind Map* は受講生同士がお互いの思考を比較し議論するのに非常に適している。受講生は事前に一章（20 ページ程度）読み、授業でその要約を *Mind Map* に落とし込む。そしてグループワークで比較。そこで得た知識をどうおのおのの生活にどう生かせるのか議論を行う。最後にそこで得た気づきを書きとめるのである。

#### 5. 最後に

受講生アンケートの結果、本に対する印象はおおむね肯定的であった。しかし受講生は読む量に圧倒された様だ。英語で本を読む体力が決定的に欠けていることが分かった。加えて受講生によっては難易度が高かった様だ。今回はあえて本の和訳を生徒に与えなかった。次回から受講生の理解度を高めるためのしかけが必要だと考えている。

#### 参考文献

- Tal Ban-Shahar. (2008) *Happier*. McGraw-Hill Publishing company. Berkshire.
- Brene Brown. (2012) *Daring Greatly*. Penguin Books Ltd. London.
- トニー・ブザン/バリー・ブザン (2010)「ザ・マインドマップ」ダイヤモンド社

## 0. はじめに

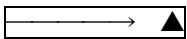
日本語の「先」という語が時を表す用法に用いられる際に、「さき」と読む場合は発話時から見て未来と過去の両方を表すが、「せん」と読む場合は過去を表すとされる。「先」が用いられた時に関する言語表現は伊藤(2008)、安井(2010)等の先行研究で扱われ、時と方向の概念的結びつきに関しては Lakoff & Johnson (1980) および(1999)等で論じられている。「先」が用いられた表現の中には「矢先」や「時代の先端」など「さき＝未来・過去」、「せん＝過去」という等式が成立しないと考えられる場合が存在する。そこで本発表では「さき」と「せん」によって表される物理的な事物を人間がどのように捉えるのか検討し、「過去」や「未来」といった時の概念に用いられる仕組みを我々の視点を基盤にして説明する。

## 1. 物理的用法の「先」

「先」によって示される時について検討する前に我々が「先」によって表される物理的事象をどのように捉えているのかを考察する必要がある。

- (1) バットの先 / 指先 / 枝の先
- (2) 公園の先に学校がある。 公園のずっと先に学校がある。
- (3) 半島のずっと先のほうまで行こう。半島の先端まで行こう。\*半島のずっと先端まで行こう。

物理的用法の「さき」は程度を表す副詞を伴うことができ観察者の視点から極点までの過程が暗示される場合もあるが観察者の視点から離れた極点の部分が焦点化される場合もあるのに対し、「せん」については用法が限られていて極点の部分にのみ焦点が当てられると考えられる。つまり、図 1 で示されるように、「さき」は線的・点的の両方で捉えられるのに対し、「せん」は単に点的として捉えられると考えられる。

図 1 観察者の視点  $\triangle$   さき 線的・点的

観察者の視点  $\triangle$   $\cdots \rightarrow$   せん 点的

## 2. 「先」によって示される時の表現

### 2.1. 「先」が示す時の捉え方

日本語の「先」という語は(4)-(6)の例に見られるように「さき」と読む場合は発話時から見て未来と過去の両方を表し、「せん」と読む場合は過去の出来事を表すとされる。

- (4) 先延ばし / 先行き 「未来」
- (5) 私は彼より先に着いた 「過去」
- (6) 先月 / 先週 / 祖先 「過去」

「先」が未来や過去を表す仕組みを示すために安井(2010)では槍がもつ概念、つまり槍の手元を現在と捉え槍の先を未来と捉えるとした上で次のように説明されている。

- (7) 「先」が過去を意味することになるのは、人(話し手)の視点から見た槍の「先」なのではなく、英語の the preceding day と同様に、未来から過去に向かって動いている「時」の視点から見た槍の「先」であると考えればよい。

—安井 (2010:113)

この説明では「さき」と「せん」で捉えられる方向が異なる理由が明確でない。また、「せん」を説明するのに「さき」を用いていることや、「時代の先端に行く」や「先端技術」のように概念的には過去を表さない表現は槍の概念を用いて説明することはできない。そこで「さき」と「せん」は読み方が違うものの同じ漢字「先」が用いられているため、過去や未来のように一見対立的な時の概念においても共通する方向性で捉えられると考えられる。Lakoff & Johnson (1991: 141)では過去の方性について次のように述べられている。

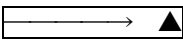
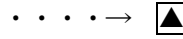
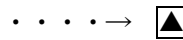
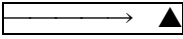
- (8) The Past Is In Front is grounded by the experience of being able to see the results of what you have just done in front of you.

—Lakoff & Johnson (1999: 141)

過去に起きた出来事は結果状態として存在していることが含意され可視化できる事象であると捉えられる。要するに、過去の事象は我々が対象物を知覚する方向、つまり「前」方向の概念で捉えられる場合があると考えられる。日本語の「先」に関しては第 1 節で検討したように「さき」「せん」のように読み方が異なっても観察者の視点から離れた部分が焦点化されるのは共通である。過去と未来に関しても発話時から離れているという点では



共通であり、物理的用法としての「先」の概念を基盤にして言語表現に反映される。(9)-(12)のように観察者（発話時）を視点として図式化することで、「先」が包含する時の概念が明確になる。

- |                   |    |             |   |                                                                                     |
|-------------------|----|-------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------|
| (9) 先を走る列車が遅れている  | 空間 | 観察者の視点（発話時） | △ |  |
| (10) 先に出た列車が遅れている | 過去 | 観察者の視点（発話時） | △ |  |
| (11) 先行列車が遅れている   | 過去 | 観察者の視点（発話時） | △ |  |
| (12) 3年先に運行予定の列車  | 未来 | 観察者の視点（発話時） | △ |  |

物理的な事象において点的に捉えられる「せん」は時を示す用法においても時の一点として解釈される。「さき」が未来を表す場合は物理的用法としての「さき」が包含する線的な概念が転移し、過去を表す場合は「さき」によって示される物体の極点つまり点的な概念のみが転移すると考えられる。そのため、次の(13)-(14)のように修飾語句を伴い線的に捉えられる過去の事象を「先」で表すことができないと考えられる。

- (13) \*5分先に出た列車が遅れている (cf. 5分前に出た列車が遅れている)  
 (14) \*5分先行する列車が遅れている

## 2.2. 「先」が用いられたその他の表現

「先」を「せん」と読む場合は(6)や(11)のように過去を表す場合と次の(15)のように概念的には過去の概念を包含せずむしろ未来志向を示す用例も存在する。

- (15) 時代の先端を行く / 先端技術

この用例では発話時から見て時代や技術が進んでいくことが示されるが、時代や技術が発話時から変化してかけ離れたものになることが暗示されると考えられる。

- (16) 建設工事を進めていた矢先に台風が襲った

手元（工事の開始時） △ —————→ ▲ 矢先（工事の中断+台風の襲撃）

「矢先」に関しては矢の手元の部分を基準時、手元から極点までの部分を出来事の進行過程、極点の部分を出来事の終了時および次の出来事の開始時として捉えることができる。

## 3. まとめ

日本語の「先」が時を表す用法は数多く存在する。用例により未来を表す場合もあれば過去を表す場合もあるが、いずれの表現においても観察者の視点から離れた部分という「先」が包含する概念を基盤にし、線的・点的な観点を加えて分析することでそれぞれの表現が明確になると考えられる。「先」が用いられたその他の言語表現、および時に関する用法としての「先」と「後」および「前」と「後」の分析は今後の研究課題とする。

### 【主要参考文献】

- Lakoff, G. (1987) *Women, Fire and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. University of Chicago Press. Chicago.  
 Lakoff, G. & M. Johnson. (1980) *Metaphors We Live By*. University of Chicago Press. Chicago.  
 Lakoff, G. & M. Johnson (1999) *Philosophy in the Flesh: The Embodiment Mind and its Challenge to Western Thought*. Basic Books. New York.  
 Langacker, R. (1991) *Foundation of Cognitive Grammar: Descriptive Application*. Stanford University Press. California.  
 Talmy, L. (2000) *Toward a Cognitive Semantics* vols.1-2. MIT Press. Cambridge  
 伊藤創 (2008) 「空間から時間へ 概念メタファーの考察—「先」「前」「後」の分析を通じて—」『KLS 28』1-10  
 瀬戸賢一 (1995) 『メタファー思考』講談社. 東京.  
 鍋島弘治朗(2011)『日本語のメタファー』くろしお出版. 東京.  
 真栄城玄太 (2012) 「「さき」の空間的意味についての考察」『KLS 32』243-254  
 安井泉 (2010) 『ことばから文化へ—文化がことばの中で息を潜めている—』開拓社. 東京.

## 言語文化教育学会設立趣意書

大学における言語教育は、言語学や文学などの専門家の手に委ねられている場合が多い。言語教育そのものを直接の専門とはしない人々が教育の効果をあげるために工夫を重ね、努力してきた。その経験を言語教育の専門家も交えて分かち合い、相互啓発の場を設けたい。同時に、今後言語教育に携わる者への研修を兼ねることで、教員養成改革へ一石を投じることも目的とし、言語文化教育学会（以下、本学会）を設立する。

言語教育は分析的であると同時に総合的な性格をもつ。したがって、学問分野がより専門化し、細分化と深化による分岐が進む時代に、本学会は言語教育という共通の基盤に立ち、教える言語の差異を超えて、異なる分野の専門家に討論と相互啓発の場を提供する。

本学会は、学際的であるだけでなく、「職際的」な性格をもつ開かれた学会を志向する。したがって、言語教育に携わっている人の他に、学習者や社会人も含め、言語教育に関心のあるすべての人に参加を呼びかける。

本学会は、講演会や討論会を開催することによって、専門や立場を異にする参加者が自由に言語教育の諸相を論じ、言語教育への認識を深めることを主な活動とする。内容としては、言語教育における言語と文化の関係を中心に、言語と心理、言語と社会、言語とコミュニケーション、言語と情報などを論じる。

本学会の前身である「早稲田大学言語教育研究会」は 1996 年より、言語の違いを越えた言語教育者間の知識の共有を目的として、国内外の研究者による講演会を企画・運営してきた。同研究会はその理念を引き継ぐ本学会の設立とともに、発展的に解消する。

### 《学会理事》

|                |                          |
|----------------|--------------------------|
| 池田 雅之          | (早稲田大学： 英語・比較文学/比較基層文化論) |
| 一森 俊明          | (東京大学学生：フランス語・言語学)       |
| 浮田 三郎          | (広島大学： ギリシャ語・言語学)        |
| 岡田 浩平          | (早稲田大学： ドイツ語・ドイツ文学)      |
| 川口 義一          | (早稲田大学： 日本語・言語教育)        |
| 河住 有希子         | (日本工業大学：日本語・日本語教育)       |
| 佐藤 巨呂呂         | (大学書林国際語学センター)           |
| 志野 文乃          | (早稲田大学大学院生：英語・英語教育)      |
| Snowden, Paul  | (多摩大学： 英語・比較言語学)         |
| 徳永 美暁          | (昭和女子大学：日本語・言語学)         |
| 中井 基博          | (東京国際大学：英語・英語教育)         |
| 中田 清一          | (青山学院大学名誉教授：英語、日本語・言語学)  |
| 生井 健一          | (早稲田大学 英語・言語学)           |
| 深田 嘉昭          | (武蔵野大学他：日本語・言語教育) 事務局    |
| 福田 育弘          | (早稲田大学： フランス語・フランス文学)    |
| 藤村 泰司          | (国際大学： 日本語・日本語学)         |
| Berendt, Erich | (清泉女子大学名誉教授：英語・社会言語学)    |
| 村上 公一          | (早稲田大学： 中国語・中国語教育学)      |
| 村田 久美子         | (早稲田大学： 英語・異文化コミュニケーション) |
| 本橋 幸康          | (埼玉大学： 日本語・国語教育)         |
| 矢野 安剛          | (早稲田大学名誉教授： 英語・応用言語学)    |

〈アイウエオ順〉

# 言語文化教育学会(the Japan Association of Teaching Language and Culture) 会則

## 第1条：(名称)

本会の名称は言語文化教育学会(JATLaC: The Japan Association of Teaching Language and Culture)とする。以下、本会と記す。

## 第2条：(目的)

本会は、わが国における言語文化教育の発展と向上に資するための調査・研究を目的とする。

## 第3条：(事業)

本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 大会、その他研究集会の開催
2. ニュースレターおよび学会誌の発行、ホームページの運営
3. その他本会の目的を達成するための事業

## 第4条：(会員)

本会の会員は年齢、職業、身分、性別の一切を問わず、第2条の目的に関心をもつ者で構成され、正会員、学生会員、賛助会員からなる。

1. 正会員：
2. 学生会員：
3. 賛助会員：

## 第5条：(会費・会計)

会員は会費を納入するものとする。会費の額は理事会が提案し、会員総会において審議、決定する。

会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

予算案および収支決算書は、会計監査担当の理事が監査し、総会で承認を得る。

## 第6条：(役員)

本会に会長1名、理事を若干名置く。

1. 理事は会員より選出されるものとする。任期は3年とし、再任を妨げない。
2. 会長は理事の互選により選出され、会務を統括し、本会を代表する。

## 第7条：(総会・理事会)

本会に総会、理事会を置く。

総会は、正会員、学生会員をもって組織し、原則として年1回、会長が招集する。総会は、本会の議決機関として本会の事業および運営に関する重要事項を審議決定する。また、理事会は必要に応じて臨時総会を開催することができる。

理事会は、会長および理事をもって組織し、第3条に定める事業ならびに収支予算および収支決算に責任を負い、執行の任に当たる。

## 第8条：(事務局)

本会は、事務局を早稲田大学内に置く。

## 第9条：(改正)

会則は、総会出席者の3分の2以上の同意を得て改正することができる。

付則：この会則は、2001年10月27日の本会第1回大会の総会において制定し、その日より発効する。

## 言語文化教育学会のご案内

当学会は2001年10月27日の会員総会において、正式に発足いたしました。

本学会の特徴として、第1は、日本語であれ、英語であれ、フランス語であれ、中国語であれ、教え、学ぶ言語文化の種類を問わず、言語教育・学習に携わる者、あるいは関心をもつ者が集まって相互に啓蒙しあい、意識を高め、言語教育の改善に向けて発言していくという「横断性」。第2は、文学、言語学、社会学など様々な分野の専門家がそれぞれの立場から意見を出しあい、議論し、学びあう「学際性」。第3は、学生とか、主婦とか、退職者とかの身分や教員とか企業人とか自由業者などの職種を問わない集団が様々な、異なる立場から言語教育を語りあう「職際性」。最後に、人種・民族や障害の有無を越えて、手話や点字や自閉症者のコミュニケーション補助言語など、障害者のコミュニケーション補助なども含めた言語教育を語っていく「異際性」が挙げられます。

本学会は、言語文化教育に関心をもつ人々が異なる立場から異なる意見をもちより、自由に議論し、言語文化教育に対する意識を高めあい、啓発しあい、後進の指導にあたることを目指しております。

言語文化教育にご興味をお持ちの多くのかたのご参加をお待ちしております。

言語文化教育学会 会長 矢野 安剛

## 言語文化教育学会入会案内

本学会は言語教育に携わっている方だけでなく、社会人や学習者など、言語教育に関心を持つすべての人に参加を呼びかけております。したがって、本学会には、本学会の趣旨に賛同なさる方でしたら、どなたでも入会いただけます。

入会を御希望の方は、入会申込書、会員登録用紙に必要事項を御記入のうえお出しください。なお、本学会の連絡は、原則として電子メールでいたしますので、メールアドレスの御記入をお忘れなく。また、会費は、原則として学会の口座へ振り込んでいただきます（申し訳ありませんが、手数料は個人負担とさせていただきます）。

入会申込書・会員登録用紙は学会ホームページよりダウンロードしていただけます。

〔会費〕            正会員   ： 5000 円

                      学生会員： 3000 円

                      賛助会員： 20000 円

《学会預金口座》：三菱東京 UFJ 銀行 江戸川橋支店

                      普通預金 1017574 言語文化教育学会

提出先住所：       〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

早稲田大学教育・総合科学学術院 福田育弘研究室内 言語文化教育学会事務局

- ・ 入会申込書の提出、会費納入の際には、確認が遅くなることがございますので、前もって必ず事務局宛メールでご一報ください。（事務局に係が常駐しているわけではありません）
- ・ 入会は入会申込用紙、会員登録用紙の提出、および会費の納入をもって完了するものといたします。確認ができ次第、事務局より手続き完了のご連絡をメールでいたします。
- ・ 振り込みの明細書をもって、領収書とさせていただきますが、学会発行の領収書が必要な方は事務局までお申し出ください。
- ・ 学生会員の入会申込、更新にあたっては、学生証のコピーなど学生であることが確認できる書類を提出していただきます。学籍を確認できない場合は、正会員扱いとなりますので、ご了承ください。

問い合わせ先：言語文化教育学会事務局（[jatlac@gol.com](mailto:jatlac@gol.com)）

## 〔お知らせ〕

・言語文化教育学会、2014 年シンポジウム、第 14 回大会に関しましては、当学会ホームページでご確認ください。

・2014 年 4 月より以下の要領で第 14 回記念大会個人発表の受付をいたします。

### 言語文化教育学会大会個人発表 申し込み要領

- ・発表者は本学会会員、もしくは会員の推薦を受けたものとする。発表者を推薦する学会員は、その発表者にかわり、学会へ発表の申し込みを行い、発表当日は紹介者として、その発表の司会進行を行う。
- ・発表内容は、言語文化教育に関するもので、未発表の内容に限る。
- ・発表、資料、発表概要とも、使用言語は日本語とする。
- ・発表の時間は、質疑応答も含め一人 30 分程度とする。
- ・発表を希望するものは、6 月末までに 1000 字程度の発表概要と共に、事務局宛に発表を申し込むこと。発表概要は、メールの添付書類で送付するものとする。提出ファイルの形式は、ワード、テキスト、pdf ファイルのいずれかとする。
- ・理事会は発表の内容を審査し、9 月上旬までに事務局より採否を通知する。
- ・審査に通り、発表が決定した者は、10 月中旬（期日は後日確定の上ご連絡します）までに、予稿集原稿を事務局宛添付ファイル（doc・docx.及び pdf.）で送ること。
- ・口頭発表を行った者は、学会誌向けに発表内容を「発表報告」として A4、4 枚程度に文章化し、pdf ファイルで、年末までに提出しなければならない。（書式は投稿論文に準じる）

### ・『言語文化教育』通巻第9号論文募集のお知らせ

以下の要領で、学会誌第9号の論文を公募致します。多数の方のご応募をお待ち致しております。

- ・論文を応募する者は、言語文化教育学会の会員であること。
- ・論文の内容は、言語教育に関するものであること。
- ・未発表のものに限る。
- ・論文執筆の為の使用言語は、原則として日本語とする。
- ・論文の体裁は以下のように統一すること。

長さ：資料・参考文献を含めて15枚以下

体裁：全角40字40行、MS明朝11ポイント（外国語の例文等を掲載する場合は、この限りではない）原則として、マイクロソフトワードのファイル、および、pdf.ファイルで提出

- ・締め切り：2014年9月末

学会は、提出された論文に関して審査し、2014 年 11 月中に応募者に採否を連絡する。

- ・当学会に対するご意見、ご要望等は、学会事務局宛 E-mail でお知らせください。
- ・学会企画に関するお問い合わせも、事務局まで、E-mail にてお願いいたします。

## 言語文化教育学会事務局

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

早稲田大学教育・総合科学学術院 福田育弘研究室内

E-mail : [jatlac@gol.com](mailto:jatlac@gol.com)

ホームページ : <http://www.waseda.jp/assoc-JATLaC/>

言語文化教育学会  
第 13 回大会予稿集  
2013 年 12 月 14・15 日

**JATLaC** 言語文化教育学会

大会参加費領収